

## 『国際政治』189号

### 「地域から見た国際政治」

本特集の目的は、地域研究の視点から国際政治・国際政治学を見直すと共に、そうした視点を意識化することによって、地域研究が国際政治一般に対して果たす役割、その在り方を再検討することにある。

本学会の会員の構成が顕著に示しているように、日本の国際政治学は、一方で理論やグローバルな対象を扱った研究があり、他方で多様な地域研究や歴史研究が並存するという形で発展してきた。それは、前者を中心としたアメリカの国際関係論（IR）とは異なる日本の国際政治学の特色であるとも主張できるが、では、こうした日本の国際政治学がその特徴を生かして、それぞれの地域独自の国際政治に対する多様な視点、概念、思想を抽出し、新たな国際政治学の誕生に貢献してきたかという点、必ずしもそうではない。地域の枠内に留まり、相互に通じるジャーゴンで事足りる議論に終始してきたのではないだろうか。しかし、地域の歴史や政治・経済・社会の形態は国際政治の構造の中でそれぞれ形成されたものであり、地域の個々の外交や政治活動の論理は、全体的な国際政治の動向との関係抜きには議論できず、またあり得えないものである。こうした中で、地域研究に従事する者はそれぞれ国際政治に提起すべきテーマや視点を培ってきたのではないだろうか。

本特集は、こうした問題意識から、アメリカ主体のIRの国際政治の見方に対して、それぞれの地域から見えてくる国際政治の異なる局面を提出し、IRの相対化、再検討をはかることを目指したい。

具体的には、各地域において、冷戦、民族紛争、テロ、戦争、安全保障、グローバル化といった国際政治に関する一般的、普遍的な事象、概念がどのように異なる形で了解されているのかについて、そうした異なった視覚が各国の外交政策、対外認識に与える影響の有無、一方的に「遅れたもの」「特殊なもの」として断じられる傾向のある周辺諸国の外交政策や対外認識における独自の論理の抽出、それがアメリカ外交を中心として動いている国際政治に向けられたインプリケーションの考察などが考えられる。また、逆に、地域研究の理論化におけるIRの理論の汎用性、必要性を論じることも可能である。テーマは個別のイシューに関してでも、各国、各地域の先行研究の特色を国際政治一般の議論との関係で論じる形でも、各地域における国際政治理論や概念の特殊性についてでも、様々な形態があり得る。地域研究者が各地域の独自性の中に閉じこもるのではなく、その研究を国際政治学の中に位置づけていく契機を探るために、多くの投稿を期待したい。

論文の応募をご希望の会員は、論文の仮タイトルと要旨（600～800字程度）を下記の編集責任者の連絡先までお送りください（締切は2016年6月30日）。応募にあたってはご自宅とご勤務先・ご所属先の住所・電話／FAX番号、メールアドレスをお知らせください。検討のうえ、ご執筆願うことになった方には2016年7月31日までに編集責任者か

ら連絡いたします。論文原稿の最終提出締め切りは 2017 年 1 月 31 日を予定しております。論文原稿の分量は註を含んで 2 万字以内です。査読のうえ最終的な掲載の可否を決定いたします。本号の刊行は 2017 年 5 月 31 日を予定しています。執筆要領の詳細は学会ホームページでご確認 ください。

<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お問い合わせ・お申し込みは下記までお願いいたします。

《編集責任者》大島美穂

《連絡先》〒187-8577 小平市津田町 2-1-1

津田塾大学国際関係学科

TEL 042-342-5155

Fax 042-342-5156

E-mail : oshima★tsuda.ac.jp

(★を@に置き換えてください)